

平成 2 1 年度 第 3 回学校関係者評価報告書

鳥取県立倉吉東高等学校  
 学校長 名 越 和 範

評 価 日	平成 2 2 年 3 月 1 9 日 (金)	
評 価 ・ 提 言	学校の見・改善策等	
<p>1. 今年度の自己評価について                      (1) 重点目標の達成状況                      1, 「倉吉東高のかたち」に沿った学校文化度の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 具体的項目にある規律ある生活と「文武両道」の後期改善方策部分に、教員側の率先垂範の意識を高めるといふ部分の評価が B になっているが、数値目標であれば 80% 以上の達成で A ということであれば、生徒でなく教員であるとすれば、当然 A であるべきだと思うが。</li> <li>・ 中学生用 HP の進歩がないのはなぜか。また、中学生特別講座の申込数が低調だったのはなぜか。受講後のアンケート結果は好評であるのにつじつまがあわない。</li> </ul> <p>・ 客寄せみたいなことまでする必要はない。</p> <p>・ インターネットは、見た瞬間にいかにも人を引きつけられるかである。そのようなものを作成してほしい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 現状に満足することなくさらに意識を高めていこうというものである。</li> <li>・ 卒業した 3 年生のときから始まった中学生講座であるが、そのときが 104 名、次の年が 75、6 名、今の 1 年生が 114 名、今回が 68 名と隔年現象になっている傾向がある。申し込みは、夏に行われる中学生体験事業で本校の授業を受けた全生徒に対して紹介し、中学校をとおして申し込む形をとっている。</li> <li>・ 400 名を超える中学生が体験事業に参加してくれたが、他校との比較の中で負けているのかもしれない。体験事業後の授業体験アンケートの内容が「長すぎる」「まじめすぎる」というものもあった。気楽でおもしろおかしくない中学生にはうけないと中学校の校長先生にも言われたことがある。</li> <li>・ HP に中学生用部分はあることはある。教員の仕事として授業や生徒指導に重きを置いているので、HP の更新は主に管理職になっている。中学生の興味を引きつける感覚があわないのかもしれない。</li> <li>・ 今年 2 月にあった各中学校へ出かけていって行く高校説明会には、例年管理職が出かけていたが、今回は、若手教員に行ってもらった。まじめな話をしても年が近いので受け入れやすかったようで、「倉吉東高は勉強ばかりだと思ったがイメージが変わった」という感想を 10 人中 8 人ぐらいの割合で書いていた。ずいぶん</li> </ul>	

・ 今回の定員割れと中学生講座の受講者減とは相関があるのか。定員割れだからといって学校の方針を迎合する必要があるのか。実際、母数に対して志望人数が減っているのか。母数自体が減っているのか。

・ 中学生の学力低下はないのか。

・ 欠席された方からの提言を読み上げる。  
チューター制度に関するアンケート  
「自分自身の成長」を意識出来ていることと、1年生での「次年度チューター希望」の伸びを多めに評価したい。ただ、これだけではないが、東高の素晴らしいシステムについて中学校に伝わっていないのではないか。アンケートで「チューター制度をご存じですか？」という設問があるが、「東高入学以前に知っていたか？」という項目も付けてはどうか。  
授業評価アンケート  
項目②で後期が悪くなっているのが気になる。④⑤⑥⑫の内容がよくなっていることは評価できる。⑦の内容の悪化はどういうことか気になる。  
自己評価表  
3月評価については、特に意見はないが、4. の「国公立大学合格者数の維持・発展」については、中後期の結果を見た上で

固定観念ができていいるなど感じた。来年は、固定観念を変える説明の仕方、人選をしていきたい。

・ 若手教員やその中学の卒業生など、身近に感じる人に「倉吉東高校はいろいろなことに努力する人材を求めている」と発信してもらった。

・ 中部地区は東や西に行きやすい地域ではある。今いる生徒にすれば、1.00倍くらいなのだが、あの（東西部）学校の部活に入りたいからという理由を聞く。特にチームでおこなう運動部活動である。部活要因は大きい。また、高専が、中部から40名も受験者を増やした。昨今の経済状況の中で、就職率が100%近い、受験勉強しなくても大学に編入ができるということが魅力になっていると思われる。

・ よく、今年の3年生は成績が悪くって・・・とは言われるが、実際には学力の共通の物差しがない。模試は2種類あるようだが、学校によって受験しているものが異なり、みなが同じものを受けているわけではないので学力の物差しとはなっていない。中部地区全体の学力が下がっていても相対的なものであるので、本来ならば志望数は変わらないと考えられるが、中学の校長先生は「今年は学力が低くて。」と答えられ、12月時点で志望が50人 少なかった。そんな状態であったので、何度も中学校に足を運んだが、増えなかった。私たち高校教員が大学入試の指導をするときには、相対的にものを見るが、中学校は固定的に指導をしておられるように感じる。

「A」になることを望む。

その他

①専攻科の存続問題、②東高志望者減の原因究明。

①については、県会議員の方への説明を続けるしかないか。②については、新1年生に対して中学時代に「東高にどういう印象を持っていたか」「チューター制度／中学生向け講座高校生フォーラム／進学実績etc」についてどの程度理解していたか、また中学の先生から志望校選択について、どのような進路指導を受けたか。保護者についても同様だが、意識調査を行ってみる必要があるのではないか。それらを踏まえて、中学生・中学の先生・保護者に対して、今後更なるアピールを。例えば、中学校のPTAと連携して(役員をされていた方や、下の子が中学にいらっしゃる家庭に協力していただく)、小学・中学校区単位での会に併せて、研修会の形で東高を若手教員・卒業生・保護者により説明を行う。中学生を意識したHP作りはもっと力をいれたほうが良い。「松柏」的な生徒の作った中学生向けのパンフレットもあっていいのでは。

・倉吉東高のあり方は一般の中学生や保護者のニーズから離れてきたのではないか。大学進学へのニーズにしても、いい大学に入っても就職がない、いい大学に行ったら鳥取県には帰ってこれない、今の親子は友達親子なので地元志向が強い。また、留年があった。風評被害かもしれないが、倉吉東高校は厳しいという声がある。だから、ランクを落として楽をしたい。西高はかなりの倍率になっている。定員割れを受けて、倉吉東高校は、時代のニーズにあった楽しい雰囲気のある学校にしていくのか。このままいくのか。

・実際は中に入ってみれば、生徒は楽しそうに朗らかに生活しているが、「部活が土曜日、日曜日あるんだって」「3年生は年末年始も行くんだって」「しかも落第した人がおるんだって」そんなことばかりが広がってイメージが作られている。子供たちが生きて歩く宣伝広告をしてくれればよいのだが。

・教員がそれは違うといっても言い訳になるので、保護者が言っていくようにすればよい。

## 2, 教育力の向上

・生徒の授業アンケート結果が消極的な感じ

(専攻科存続問題については、5, 専攻科教育の充実にて)

・アンケートについては各担当者には伝えたので今後検討してみたいと思う。

・倉吉東高校が求めている学力は相当高い、厳しいというイメージをもっていらっしゃる方が多いようであるが、言われるような楽しい雰囲気には迎合してうちの学校の教育を変えていくつもりはない。

・先日の育友会評議委員会で役員さんがおっしゃっていたが、全くそんなことはないのに、ある店で「今東高って荒れているんだって？」という噂を聞かれてびっくりされたということがあった。

・生徒は、授業を受ける態度はできている。進

がする。予習復習をきちんとして授業に臨む生徒が10%台ということは、もう一歩発展させたいという姿勢ができていない気がする。教員についてもAとBではBが多い。

- ・このデータは個々の集計か。
- ・オープンにしているか。

### 3, 学校評価の充実

・荻谷研究室による本校教育の検証推進についてだが、継続はいいが、実際はどうか。進んでいないのか。こっちに振り向いていないのか。

・手応えがない。進行中なのか、動いていないのか。手応えがないのは問題だ。倉吉東高校はよその高校以上に努力しておられると思っているのに、この部分は手応えがない。項目としてあげる必要があるのか。評議員の中でも理解しておられないのではないのか。

・その2年間はものすごくよくわかり、批評もされていた。何年行っておられるのか。

・動いてこそその評価である。

・「検索くんシステム」とは何か。

・どんな新聞か。

んで質問をする生徒は学年を追うごとに多くなっているが、疑問に思ったことを自ら聞ける生徒をつくっていききたい。また、教員の授業力がそのような生徒を増やすことにつながる。教材研究、工夫をしてAを増やしていくことにこだわり力を注ぎたい。

・個々の教員がクラスでとったアンケートを集計したものを集めて集計してある。教科としての数値もでる。  
・している。また、特に評価の高い先生の授業について研修会をしたことがある。各教科、学年ごとに結果を分析し、問題意識を持って改善していききたい。

・昨年度第三者評価で図書館のメディアセンター化を進めてはというアドバイスをもらったが、当初予算がつかなかった。夏以降再度申請したら予算がつき、検索システムの導入となった。しかし、今年度は第三者評価は本校には入っておらず、判断しにくいので\*つけた。もともと項目に入れるべきではなかったのかもしれない。

・荻谷先生は現在オックスフォード大学にいらっしゃる。荻谷研究室でいっしょにかかわっておられた方が引き継いで研究し、発表もしておられるが、その内容は今のところは全体にかかわるものであって本校のことがわかる資料ではない。都会と田舎、公立と私立の比較というところである。アンケートは、これからまた2年間続く。

・最初のときは、2年間来てくださり、資料もあった。

・院生の方に聞くと何年で帰るともわからないらしい。ひょっとするとずっと向こうということもありうるかもしれないそうだ。

・評価なしにし、理由も書いておく。

・小論文を書くときやあるテーマについて調べるとき、「朝日検索くん」を使い新聞記事で取り上げられた項目を取り出すことができる。それを参考にしながら小論文を書ける。キーワードを入れるとそれに関連した新聞記事や写真がでてくるようになっている。

・「朝日検索くん」なので朝日新聞のみである。来年度の予算がとおったということなので、図書館を中心に文化的発信ができるようになる。司書は意欲的に様々な取り組みを工夫する人なので教材もからめながらゼミナールを行っているであろう。

#### 4, 進路指導の充実

・具体的項目「教員の進路指導力の向上」の目指す姿の部分に大事なことが書いてある。生徒の意識が「将来・社会・責任貢献」に開かれるような生き方指導とはどんなことか。もう少し具体的に教えてほしい。進路指導力向上研修とはどのようにして行うのか。

・意見は出るのか。

・数値で表れるから勘違いされる危ない部分だ。

・結果がうまくいなくても、そこまでの経過が大事である。外のイメージが払拭できたらよいが。

・Aでよいのでは。本当に努力をしておられ

・「出口指導」ではないということ。この点数をとっているからこの大学ということではなく、様々な情報を全員で共有しながら、また、生徒の要望を聞きながら指導を進めている。例えば、1年生の進路検討会議にも他学年の教員が出席し、経験を語る。

・1年生の担任は、本校で3年を担任した経験のない人もいる。3年後を見据えた上で1年生のときにどのようなことを考えるべきか、いろいろな意見をいただくので、大変参考になった。生徒のことについて話をしているが、実は教員が学んでいる。

・専攻科生は、前期で合格した生徒は、残念ながら前期で結果が出なかった生徒が、後期受験に行っている間に専攻科に出てきて、感謝の気持ちを持って専攻科棟を掃除をしている。判定会議でそのような姿が伝わり、今年は3年生がそれをするようになった。私立の指定校推薦でかなり早く合格が決まった生徒も、もう学校にこないというのではなく、ずっと一緒に学習していた。それを周りの者も知っていて逆に自分たちの力にしていった。そういう意味で指導はうまくいっている。

・それが軋轢を生むときもある。その手厚い関わり方が暑苦しい、邪魔くさいという生徒もある。学校の名誉のために受験させていると思う人もいる。先に受かって自分は一抜けたという生徒もありうる。そんなリスクを負いつつも行っている。

・教員はひたすら面接をしている。それがミスマッチなくすためにも、生徒を伸ばすためにも必要である。生き方指導、信頼関係の構築や共にやろうという気持ちも高めている。日々の休憩、放課後、休日、長期休業中など本当に丁寧に何度も面接が行われる。それが、幅広い大学で合格が出ている結果となっている。

・ひとりひとりの進路や志望を教員が丁寧にあたっていくことが重要だと考えている。

・今年こんなことがあった。前期残念な結果だった生徒が「先生、すいませんでした。」と報告に来ていた。自分のことはもちろんだが、先生のためにも頑張らなくてはという気持ちになっていた。すごいと思った。最初は軋轢があってもずっと面接を重ねていくに従って理解が深まっている。

る。

・風評は止めようと思ってもできない。倉吉東高校は洗練されている。その風評を甘んじて受けましょうという気持ちでやってほしい。朝、6時や7時に学校へ向かっていく姿。あれはやらせではできない。

・すごく評価されてしかるべきだ。数字が表している。

・実は1年目は風評を聞いていて委員に入った。噂を確かめてやろうという気持ちだった。しかし、今日なんか「本当に一生懸命しとんなるなあ。」と思う。入ってみたいとわからないということだ。

・現場に行くことが大事だ。

## 6, 定時制教育の充実

## 5, 専攻科教育の充実

・専攻科存続の問題はどうなっているのか。

・今年度、多くの方に倉吉東高校にきていただいた。志賀浩二氏、米谷達也氏、内田樹氏など一流の人はおべんちゃらを言わず誠意を持って接して下さる。そういう意味で外部の評価は高い。生徒はよく挨拶をする。チームでやっているの自分だけ合格しても喜ばない。友達も一緒に合格し、喜びを分かち合うことを願っている。外から見ている、転勤してくる前は数字稼ぎだと思っていた教員も今は違い、ひたすら面接をしている。

・中部地区の人は「私大いかせんだってな～」挙げ句の果て「部活させんだってな～」そんなことばかり広まっているが、3年生はしっかり自己肯定感をもってやっている。OBも自分の高校時代を考えるとこの数字が信じられないということで、この数字を出すには「悪い教育をしているに違いない」ということを言われ困っている。今、都会なら土曜日課外授業を始めたら、次の年は志願倍率は倍増するが、この辺りは「させられるんだって～」という評価になってしまう。

・生徒の授業を受ける姿、評価を含めてAにした。落ち着いてきている。次年度へ向けては、今までは単位修得という感があったが、基礎学力を含め、目標を突破させる力をつける教育を目指していく。

・6月の県議会で決着する予定。先日、専攻科に関する研究を続けてくださいという陳情をした。3月の入試結果、経済状況も見ながらというところだろう。教育委員会は存続していこうと思ったださっていると感じているが、県議会には、提案があつてからいったい何年続けるんだ、民業圧迫だとおっしゃる方もある。専攻科存続を求める署名は現在西部、中部合わせて

(2)説明・公表について

・この学校関係者評価委員会の結果を3月23日(火)に教職員に報告し、その上で、HP上で公開する。

2. 学校運営への提言

・このことを全国に広げていけばよい。県の東部、西部という枠ではなく、県外からも倉吉東高校に来たいと思う学校になればよい。そのレベルまでやっていければよい。

・定員割れしたからといってレベルを下げるべきではない。評議員の気持ちはひとつである。

・こんな学校はない。大阪大学、名古屋大学  
・・・すばらしい結果だ。  
・地元企業にも頑張ってもらいたい。

1万5千人くらい集まった。

・定員割れして値打ちが下がるものではないと思っている。信念を持ってやれば、評価して下さる方はあると思う。以前、西原さんが専攻科で1年学んだときに、息子さんの学びの質が変わったとおっしゃったが、芝野、米村を中心とした取り組みによって、今は現役のときからそれを感じている。教員が宣伝すると手前味噌になるので、保護者の方が親戚筋にも状況を話してもらおうと評価がかわってくるかもしれない。自己評価を熱意を持ってやってくつもりだ。

・モラルが低下して勉強なんかしなくてもよいという感じをだしたら、一気に崩れてしまう。今は、東大を出ても就職できない人もいる。東大だろうが、地元の鳥大だろうが、数字ができれば行かせているんだろうと言われてしまう。

・本日はいろいろ提言してくださり、ありがとうございます。青木さんが、この学校関係者評価委員会にいらっしゃるたびに理解が深まっていたとおっしゃっていただいたのが一番うれしかった。やっていることが生徒から保護者へ、保護者から地域へといっぺんに広がり理解していただくのは難しいかもしれないが、やり方を変えろということではなく、伝え方を工夫していきたい。ありがとうございました。